

せとのおき



令和3年度「家庭の日」に関する図画 特選作品
「家族で山道をサイクリング! 楽しいな!」 広島市立古田台小学校 5年 宮川 歩佳 みやかわ あゆか



青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

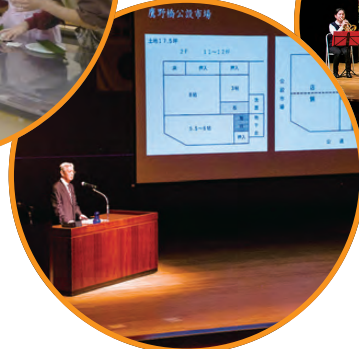
(総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。



目次

- 2 第33回 定時総会
- 3 令和3年度青少年育成県民運動推進大会
- 8 令和3年度「家庭の日」に関する作文・図画
作文の部 特選(広島県知事賞)
図画の部 特選(広島県知事賞) 入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)
- 12 「少年の主張」・中学生話し方大会2021
(第43回少年の主張広島県大会 第55回中学生話し方広島大会)
- 14 いただきます! ぶちうま継承プロジェクト
- 16 いきいき地域活動紹介
- 18 青少年育成カレッジ 総合講座
- 28 関連事業「広島県子供議会」
(青少年サポーター事業)



第33回 定時総会

第33回定時総会を広島YMCA国際文化ホールで開催

公益社団法人青少年育成広島県民会議は、令和3年6月18日(金) 13:30～14:30に「第33回定時総会」を広島YMCA国際文化ホールで開催し、報告事項として令和2年度事業報告、令和3年度事業計画及び収支予算、審議事項として令和2年度決算書、令和2年度監査報告が採択され、承認されました。



本総会の中で、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、一部、事業の見直しを余儀なくされましたが、関係者の皆様のご理解・ご協力により、青少年の育成に資する様々な事業が展開できたことに対し、改めてお礼の報告がありました。

407個人・法人の会員の皆様のもと、令和2年6月に新たにお迎えした神出会長を中心に、青少年の健全育成に向けた県民運動を全力で展開しています。



神出 亨 会長



江種 則貴 副会長

【公益社団法人青少年育成広島県民会議】 (令和4年1月1日現在)

会 員	正会員163人・136団体		賛助会員79人・29団体	
役 員	会 長	神出 亨	株式会社中電工前相談役	
	副 会 長	徳弘 親利	広島市青少年健全育成連絡協議会会長	
	//	江種 則貴	株式会社中国新聞社特別編集委員	
	常務理事	宇佐川秀輝	公益社団法人青少年育成広島県民会議事務局長	
	理 事	岸房 康行	NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21理事長	
	//	吉川 水貴	NPO法人青少年サポートクラブ理事長	
	//	木村 清	青少年育成東広島市民会議会長	
	//	藤原久美子	公益社団法人青少年育成広島県民会議前事務局長	
	監 事	末本 朱美	税理士	
	//	三好久美子	公益財団法人ひろしまこども夢財団理事長	

令和3年度 青少年育成県民運動推進大会

令和3年10月30日(土)、広島県民文化センター多目的ホールにおいて、
青少年育成県民運動推進大会を開催しました。



大会次第

【開会】

◎国歌斉唱

◎開会あいさつ

(公社) 青少年育成広島県民会議会長

◎表彰

青少年健全育成功労者等知事表彰

「家庭の日」に関する作品の知事表彰

(公社) 青少年育成広島県民会議表彰

【少年の主張意見発表】

第42回少年の主張広島県大会県知事賞受賞

第42回少年の主張全国大会国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「ぼたるの里の絆」

広島県立広島中学校3年 うえの ちひろさん

【青少年活動発表】

おのみちしりつくりはらしょうがっこう
尾道市立栗原小学校ブラスバンド部

曲目 1 RPG

2 行進曲「風の勇士」

【講演会】

講師 うえだ ぞうへい 上田 宗岡 氏(茶道上田宗箇流十六代家元)

演題 「幸せを呼ぶ食」

【閉会】

◎閉会あいさつ

(公社) 青少年育成広島県民会議副会長



神出会長あいさつ



式典では、主催者を代表して、(公社) 青少年育成広島県民会議 しん で とおる 神出 亨会長が開会のあいさつをしました。昨年度に続き、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から、受付から観客席まで徹底した感染予防対策を行い、例年ではご来賓をお招きするところも中止とさせていただきます。「広島県知事表彰」及び「青少年育成広島県民会議表彰」として、永年にわたり青少年育成に力を尽くした方々や団体、模範的な活動を行っている団体を表彰しました。

また、県内の小・中学生から応募のあった「家庭の日」に関する作文・図画の特選に選ばれた4人に県知事賞を授与しました。

終わりに、(公社) 青少年育成広島県民会議の江種 えぐさ のりたか 則貴副会長が閉会のあいさつを行い、全てのプログラムが無事に終了しました。

大会の様子はこちらから
<http://hiro-payd.or.jp/2022/02/01/2976/>



江種副会長
閉会あいさつ

令和3年度青少年健全育成成功労者等知事表彰受賞者

(青少年健全育成成功労者26人)

あしよし 豊(尾道市)	いしかわ 敏郎(広島市)	いたくら 妙子(広島市)	うめだ 斉(安芸太田町)	おきの 鈴夫(広島市)
かいばら 勝(廿日市市)	かじもと 操(広島市)	こうの 吉子(安芸太田町)	こさき 敏彦(広島市)	こんげん 正義(東広島市)
ききはま 光江(尾道市)	たかはし 努(呉市)	たなか 武文(呉市)	たばた 正則(大竹市)	つた ゆりこ(東広島市)
なかいえ 文枝(広島市)	なかむらやうの 洋之助(三次市)	にしなか 敏輝(尾道市)	はせ がわよしえ 長谷川至恵(広島市)	ひらもと ゆきこ 平本由紀子(呉市)
ふかだ 尚道(広島市)	ふじはら 健志(呉市)	みつあが 暢博(広島市)	むかいだ みはる 向井田ミハル(広島市)	もしほ 芳昭(竹原市)
よしだ 秀登(広島市)				

(育成功労団体3団体)

しんげん ちく せいしゅうねんけんげんいっせいせい進こう 庄原地区青少年健全育成協議会(庄原市) ひろしましるしめけいさつしよかんないしゅうねん ほ とうきょうしよいんれんらくきょう かい 東広島警察署管内少年補導協助力連絡協議会(東広島市) よこはまさん ぶん かくわ かい 横浜三部 福和会(坂町)

(模範青少年2人)

たなか 葵(福山市) どうほう 政瑛(福山市)

(模範活動団体1団体)

ふくやまだいがく ぼうはん さいばつと えいゆう 福山大学サイバー防犯ボランティア CyPat FU (福山市)



令和3年度「家庭の日」に関する作品の知事賞受賞者

(作文の部)

特選 東広島市立小谷小学校 1年 ながみ 旭 永見 旭
特選 東広島市立西条小学校 4年 はまだ 壮真 濱田 壮真
特選 三原市立宮浦中学校 2年 きた 小華 北 小華

(図画の部)

特選 広島市立古田台小学校 5年 みやかわ あゆか 宮川 歩佳



令和3年度青少年育成広島県民会議表彰受賞者

(青少年3人)

岸田 一希(福山市) 佐藤丈太郎(呉市) 塩入蒼桜花(呉市)

(青少年健全育成功労者48人)

今田 洋子(竹原市)	若井 初恵(広島市)	若井穂津江(廿日市市)	若本真知子(広島市)	宇都宮 崇(広島市)
大多和 孝(東広島市)	岡田 敏子(尾道市)	岡村 昇雄(府中町)	岡本 隆寛(呉市)	岡本 義弘(三原市)
男座美奈子(広島市)	金子 和泰(広島市)	亀谷 佳枝(広島市)	川村 理栄(尾道市)	川本 陽一(広島市)
賞名 英春(東広島市)	北本 賢治(廿日市市)	日下 聖子(広島市)	串井 良成(広島市)	黒田 正則(東広島市)
河野 良也(尾道市)	香畠 まみ(広島市)	坂本 哲郎(広島市)	下谷 洋子(広島市)	角田 壤二(広島市)
釈 徳水(広島市)	田端 里織(広島市)	玉川 順子(広島市)	伝道 悟(広島市)	中居 一宜(府中市)
中村 彰良(広島市)	西口 譲二(三次市)	西谷 辰子(広島市)	花田 勝彦(広島市)	日浦 好成(広島市)
飛田 光久(広島市)	福田 尚子(広島市)	藤井干津子(福山市)	前田 雄司(呉市)	松尾 俊明(広島市)
萬谷 邦子(広島市)	三宅 英文(広島市)	宮原 邦子(広島市)	山沖 房江(広島市)	山田 美徳(広島市)
山本 敬子(広島市)	山本 紀子(広島市)	米重 典子(世羅町)		

(育成功労団体7団体)

大浦区青年団(呉市) 観音空手道スポーツ少年団(広島市) 御領はね踊り保存会(福山市)
 坂マンドリンクラブ(坂町) 青少年育成川地町民会議(三次市) 高美が丘学区児童生徒健全育成功協議会(東広島市)
 美鈴が丘スポーツ少年団(広島市)

(模範活動団体3団体)

呉市立広南中学校生徒会(呉市)
 呉市立豊浜中学校生徒会(呉市)
 須波っ子太鼓(三原市)



青少年活動発表

おのみち しりつくりはらしょうがっこう

尾道市立栗原小学校ブラスバンド部 出演生徒数 / 22人

栗原小学校ブラスバンド部は、3年生から6年生までの音楽が好きな仲間が集まって、朝や放課後に練習しています。練習や演奏を支えてくださる保護者・地域の皆様に感謝の気持ちを持ち、また、聴いてくださる人に音楽の楽しさを届けることをモットーとして練習に励んでいます。例年、校内行事や地域の行事などで演奏。全日本小学生金管バンド選手権本大会に3年連続出場し、昨年度は「エクセレント賞」を受賞しました。

今回のステージでは、RPG（作曲：FUKASE）、行進曲「風の勇士」（作曲：堀田庸元^{ほりた よういち}）の2曲を披露しました。



少年の主張意見発表

第42回少年の主張広島県大会県知事賞受賞・第42回少年の主張全国大会国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「ほたるの里の絆」

広島県立広島中学校3年 ^{うえの}上野ちひろさん

※受賞時は広島県立広島中学校2年

昨年開催した「少年の主張」・中学生活し方大会2020において広島県知事賞を受賞した広島県立広島中学校3年上野ちひろさんが自分の住む町への思いを心を込めて発表しました。



講演会

講演会

「幸せを呼ぶ食」

講師 ^{うえだ そうけい}上田 宗岡 氏

(茶道上田宗箇流十六代家元)

昨年度、青少年育成広島県民会議会長を退任された上田宗岡氏を講師にお迎えして、「幸せを呼ぶ食」と題して講演をいただきました。

^{うえだ そうけい}上田宗岡 氏プロフィール

平成7年茶道上田宗箇流家元継承 (公財)上田流和風堂 理事長

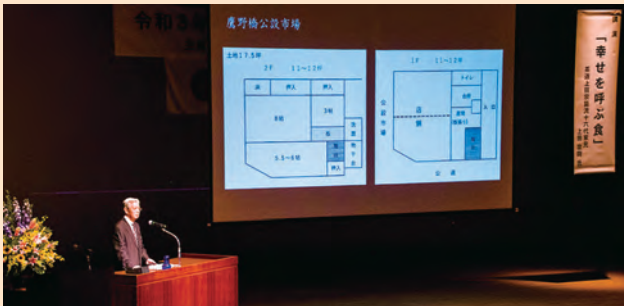
前公益社団法人青少年育成広島県民会議会長

慶應義塾大学経済学部卒業

令和元年上田宗箇広島入国400年記念事業実施ほか活動

広島大学、広島修道大学、安田女子大学等招聘教授

上田宗箇が、元和5年浅野長晟に従って広島に客将として入国、広島県西部一万七千石を知行し芸州藩(広島藩)家老となり、以来400年になり当代宗岡家元が十六代当主です。桃山時代から400年に亘り上田家に伝わった武家文化を宗箇の茶を核に現代に紹介し、日本文化の今日のあり様を提唱されています。



明るい家庭の日運動

令和3年度
「家庭の日」
に関する
作文・図画

健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。

青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。

この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、県内の小・中学生を対象に募集を行い、県内の小学校41校、中学校35校から作文・図画を合わせて2,042作品の応募がありました。

これらの作品は、日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと、家族に感謝している心や存在の大切さなど、自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

審査の結果、特選作文3作品、特選図画1作品、入選作文20作品、入選図画5作品が選ばれました。

令和3年度「家庭の日」に関する作文・図画入賞作品 入賞者

作文の部

●特選(広島県知事賞)

東広島市立小谷小学校	1年	永見旭	「ぼくのうまれたとき」
東広島市立西条小学校	4年	瀨田壮真	「お姉ちゃんとぼく」
三原市立宮浦中学校	2年	北小華	「ひいおばあちゃんとの8年間」

●入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)

竹原市立大乘小学校	2年	安福龍矢	「おかあさん」
東広島市立寺西小学校	2年	牧那由大	「じいちゃんのゴルフボール」
三原市立糸崎小学校	3年	岡野七都	「じいちゃんは野さい名人だ」
竹原市立竹原西小学校	4年	井上陽南子	「穴だらけの作業服」
竹原市立竹原西小学校	5年	馬場優	「みんなで作ったぎょうざ」
広島市立緑井小学校	6年	笹木連	「山登りと家族」
広島市立戸坂小学校	6年	西部穂香	「家族への感謝」
福山市立新市中央中学校	1年	池田圭佑	「祖父との時間」
東広島市立中央中学校	1年	梶原優菜	「当たり前だけど、当たり前じゃない」
三原市立宮浦中学校	1年	杉原成悟	「祖父母のいる風景」
広島市立井口台中学校	1年	竹内大裕	「おばあちゃんとの日々」
庄原市立庄原中学校	1年	友國涼葉	「時間の大切さ、母から学ぶ」
庄原市立庄原中学校	1年	横山陽菜	「私の家族」
竹原市立竹原中学校	2年	川崎勇輝	「コロナのおかげで」
呉市立横路中学校	2年	重本実理	「はがきでつながる」
広島市立五月が丘中学校	2年	西村隆之介	「おじいちゃん」
東広島市立中央中学校	3年	川野稔真	「母の手のありがたさ」
広島市立江波中学校	3年	高野夏海	「家族で行くから思い出になる場所」
東広島市立松賀中学校	3年	戸田一颯	「うちはおうるさい」
東広島市立西条中学校	3年	橋本大雅	「僕は妹のガードマン」

図画の部

●特選(広島県知事賞)

広島市立古田台小学校	5年	宮川歩佳	「家族で山道をサイクリング！楽しいな！」
------------	----	------	----------------------

●入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)

東広島市立高屋西小学校	1年	加本紗悠	「かぞくでキャンプへいってはおびたのしかったよ」
広島市立翠町小学校	2年	兼本瑚々羽	「パパと妹といっしょにしぼふにころがったよ」
東広島市立龍王小学校	2年	中本春雄	「おじいちゃんとへやの中でキャッチボール」
東広島市立西条小学校	4年	川石明果	「うちのきゅうりはおいしいぞ!!」
東広島市立高屋西小学校	6年	釜充樹	「ず〜っと抱っこしてたいな11年差のいとこ。」

ぼくがはじめてのつたのりものは、きゅうきゅうしゃです。それはなぜかという、ぼくはよていよりもはやく生まれ、じぶんではこきゅうができなくて、おおきいびょういんにはこぼれたからです。

ぼくは、そのときのことをぜんぜんおぼえていません。だからぼくは、おとうさんやおかあさん、6ねんせいのおにいちゃん、おばあちゃんにいろいろはなしをきいてみました。

おとうさんは、おしごとがおわるとまいにちぼくのところへ、おかあさんのぼにゅうをもってきてくれたそうです。ぼくはびょういんのなかのNICUというおへやににゅういんしていました。おとうさんは、たくさんのかだにつなげられたぼくに、たくさんこえをかけてくれていたことをはなしてくれました。

おかあさんは、ぼくよりはやくたいいんしておばあちゃんのおうちでからだをやすめながら、ぼくのことをおもいおちちのじゅんびをしてくれたそうです。そして、おとうさんのおしごとがおやすみのひにはびょういんにきてぼくといっしょにすごしてくれたそうです。おかあさんがぼくをはじめてだっこしたとき、なみだをながしてよるんでいたとおとうさんがおしえてくれました。

まだ4さいだったおにいちゃんも、おやすみのひには、おみまいにきてくれました。おへやにははいることができなかったの、ろうかからぼくをよるこぼせようと、たくさんおもしろいかおをしてくれたそうです。

「かわいい。かわいい。」

と、ぼくをみてはなんかいもいっていたそうです。

おじいちゃんとおばあちゃんは、ぼくがはやくげんきになるようにずっとねがってくれていました。ぼくがたいいんしておばあちゃんのおうちにこえてきたとき、ふたりともやさしいえがおでおもて入れてくれたそうです。とくにおじいちゃんは、ぼくのあたまをやさしくなでながらずっとだっこしてくれていました。

ほかにもいろいろなおはなしをききました。

おはなしをきいておもったことは、みんなぼくがうまれてきたことをとてもよるこんでくれていることと、げんきにそだってほしいというきもちがわかりました。ぼくは、うれしいきもちになりました。

おおきくなってもそれはかわらず、かぞくみんなぼくにやさしくしてくれます。

ぼくは、かぞくみんながだいすきです。

ぼくのお姉ちゃんは中学生。年がはなれているし、しっかり者なので何をやってもかなわない。みんなに優しいので、まわりからの人望もあつい。でも、ぼくにはやたらと冷たい気がする。ふだんから、ぼくに対してはいろいろときびしい。

そろばん教室でも、ぼくがちょっと羽目を外しそうになると、先生より先に、お姉ちゃんから

「そうまー。」

と冷たい目つきで注意される。

そして、家でも親に言われるより先に、お姉ちゃんからきびしい指てきがあったりする。分かってはいるけど、ちょっと面白くない時もある。

けれども、夏休み、そんなお姉ちゃんと友達と、4人で公園に遊びに行った時のこと。みんな楽しくおにごっこをしていたら、コンクリートで足をすべらせ、こけてしまった。思いっきりこけたせいで、ひどく足をすりむいてしまった。

公園から家まで、歩いて5分。足をひきすりながら帰ろうとしていると、お姉ちゃんが

「おんぶとだっこ、どっちがいい？」

と、優しく聞いてくれた。びっくりして、答えられずにいると、

「ハイ」

と、すわってせなかをだしてくれた。

てっきりぼくは、またいつものように冷たく注意されると思っていた。でもそういえば、ぼくがこうやって本当にこまっている時は、いつも当たり前のように、さっと助けてくれることを思い出した。そして、それはぼくにつねに気を配ってくれているからだと感じた。

ぼくは、うれしい気持ちと、はすかしい気持ちと、感しゃの気持ちなど、いろんな思いが混ざり合って、ジーンとした気持ちになった。そして、お姉ちゃんのせなかで、

「あんまりめいわくかけたくなかったのにな・・・」

と思いながら、

「いつも心配かけてごめん。」

と、つぶやいた。

それから家まで、お姉ちゃんが歩いたたび、一步一步、申し分けなくて、

「ありがとう」

と、何度も何度も思いながら帰った。

今度、お姉ちゃんがこまっていたら、ぼくが真っ先に、助けてあげようと思う。ぼくを一番に気にかけてくれるお姉ちゃんだ。これからは、お姉ちゃんがぼくに気を配らなくてすむよう、心配をかけないようにしたい。そして、ぼくもお姉ちゃんに気を配り、真っ先にサポートしてあげられる弟になるんだと、心に決めた。

私の家には、アルツハイマー型認知症のひいおばあちゃんがありました。1年半前に95歳で亡くなってしまいましたが、これは過去のひいおばあちゃんとの出来事です。

8年前、私は埼玉県からひいおばあちゃんと一緒に暮らすために、引っ越して来ました。なぜなら、ひいおばあちゃんが一人で暮らすことができず、祖母が大変なので、その手助けをするためと、途中で子供達を転校させたくないという母の思いもあったそうです。

8年前のひいおばあちゃんは認知症が進行している時で、今思えば一番ひどかった時です。例えば水筒やリモコンなどの身の回りの物がなくなることは頻繁でした。時には、小学校の旗当番の旗がゴミステーションに捨てられていることもありました。特にひどかったのは暴言です。

「帰れや！」や「出ていけ！」

など毎日のように言っていました。しかし時には、「こっちこい」「これ食べんさい」「かわいいのぉ」など優しい言葉もかけてくれていました。母の話によると、ひいおばあちゃんはとても子供好きで、面倒見が良かったそうです。病気というの理解していましたが、それでもひどい暴言をはくひいおばあちゃん、何度注意しても分かってもらえず、イライラしたり逆にどなったりしていた母がいました。私はまだ小さかったので何も言えなかったけど、スイッチが入ったかのように怒りだすひいおばあちゃんに、

「また始まった・・・。」

と嫌な気分になることもたくさんありました。

ひいおばあちゃんを自由にさせてあげたかったけど、一緒に暮らしていくためにひいおばあちゃんの部屋以外にカギをつけたり、勝手に外へ出れないようにと制限をかけました。今になって、この時のひいおばあちゃんの気持ちはどうだったのだろうと思います。そんな状態が3、4年ぐら継続しました。その後だんだん動けなくなって寝たきりになりました。この頃になると暴言ははかなくなり、優しくなっていた様な気がします。私が5年生のころには、自分ではご飯も食べれないので私がご飯をあげるのを手伝ったり、祖母や母がおむつをかえたりしていました。

そんな生活の中で私がすごいなと思ったのは、仕事に行く前にひいおばあちゃんのお世話をし出かける母。ひいおばあちゃんに美味しいものを食べさせてあげたいために、調理の工夫をして毎日手作りしていたり、しゃべりかけたり、一緒に歌ったりしていた祖母は、とてもすごいなと思いました。1人の人のために家族やヘルパーさんなど、たくさんの人が関わっていることも分かりました。

認知症は忘れてしまう病気だけど、寝たきりの状態になっても、年に何回かだけ名前を思い出して口にすることがありました。それを聞いて人の思いはどこに残っているものなんだと不思議に感じました。母や祖母は、そんな時、昔の嫌な暴言をはくひいおばあちゃんのことなんて全く思い出さず、涙が出るほど嬉しくなると言っていました。

私は、最初は受け入れることが出来なくても、相手のことを思いやり、どう考えているのかをしっかりと考え、「人」を大切にしていきたいと思います。ひいおばあちゃん、たくさんの経験をさせてくれてありがとう。



広島市立古田台小学校 5年

みやかわ あゆか
宮川 歩佳

家族で山道をサイクリング！
楽しいな！



入選 東広島市立高屋西小学校
1年 加本 紗悠
かぞくでキャンプへいってはなび
たのしかったよ



入選 広島市立翠町小学校
2年 兼本 瑚々羽
パパと妹といっしょに
しばふにころがったよ



入選 東広島市立龍王小学校
2年 中本 春雄
おじいちゃんへやの中で
キャッチボール



入選 東広島市立西条小学校
4年 川石 明果
うちのきゅうりはおいしいぞ!!



入選 東広島市立高屋西小学校 6年
釜 充樹
ず〜と抱っこしてたいな
11年差のいところ。

協賛：広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ

「少年の主張」・中学生話し方大会 2021

第43回少年の主張広島県大会

第55回中学生話し方広島大会



広島県東広島市立志和中学校 3年 みよし ちもえ 三好 百恵 さん



集合写真

令和3年9月4日(土)、広島県社会福祉会館において、「少年の主張」・中学生話し方大会2021(第43回「少年の主張」広島県大会、第55回中学生話し方広島大会)を広島県中学校話し方連盟と共催で開催(動画による発表・審査)しました。

今大会には、県内中学校の32校から3,162編の応募があり、その中から原稿審査を通過した基準を含む16人が、それぞれの主張を力強く発表(動画)しました。

発表内容としては、感情を揺さぶられた身近なことの体験を基に掘り下げて、自分がそれに対して感じたこと・考えたことを発表する人が多かったようです。そして、自分が見つけた考えや意見をこれからの自分の生き方に生かしていこうとしています。態度はしっかりと、明るく、とても良い発表ができていました。

ここに、広島県知事賞を受賞した東広島市立志和中学校3年三好 百恵さんの意見発表を掲載します。

受賞者一覧

受賞名	中学校名	氏名	題名
広島県知事賞	東広島市立志和中学校 3年	<small>みよし ちもえ</small> 三好 百恵	認め合うことの本質
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	大崎上島町立大崎上島中学校 3年	<small>こばやし ちなつ</small> 小林 千夏	画面の向こうに
広島県中学校話し方連盟会長賞	広島市立祇園中学校 3年	<small>とらた ゆづき</small> 寅田 悠月	トンネルとスタート
国際ソロプチミスト広島会長賞	広島市立大塚中学校 3年	<small>こうだ かほ</small> 郷田 果歩	自分の弱さに気づくとき
広島清流ライオンズクラブ会長賞	三次市立三次中学校 3年	<small>ますだ さき</small> 外田 咲	ひとりじゃないから
優 秀 賞	廿日市市立野坂中学校 3年	<small>こばやし めい</small> 小林 芽衣	小さな画面大きな見逃し
優 秀 賞	尾道市立日比崎中学校 3年	<small>ほった めい</small> 堀田 明依	日常
優 秀 賞	熊野町立熊野東中学校 3年	<small>さねもり えいと</small> 實森 栄登	伝統と持続可能な社会の両立を目指して
優 良 賞	庄原市立比和中学校 3年	<small>つだ ほのか</small> 津田ほのか	言えなかった大切な言葉
優 良 賞	江田島市立能美中学校 3年	<small>たかほし あみ</small> 高林 あみ	全ての人が夢を持てる世界へ
優 良 賞	尾道市立御調中学校 3年	<small>あさだ せんけい</small> 浅田 千慶	僕の願い
優 良 賞	坂町立坂中学校 3年	<small>いでした あやか</small> 出下 彩夏	感謝の気持ちを忘れずに
優 良 賞	広島市立江波中学校 2年	<small>みうら ももな</small> 三浦 桃奈	プラス思考の輪
優 良 賞	尾道市立高西中学校 2年	<small>はやし くるみ</small> 林 来美	小さな葉が生活を変える
優 良 賞	竹原市立賀茂川中学校 3年	<small>くさか ななみ</small> 日下 七海	君だけが持つもの
基準特別賞	東広島市立西条中学校 3年	<small>まつうら ひでなお</small> 松浦 秀直	魅力発信 私たちの住む西条の誇り

広島県知事賞 少年の主張全国大会 国立青少年教育振興機構 奨励賞

認め合うことの本質

広島県東広島市立志和中学校 3年 三好 百恵さん

皆さんは「人種差別」という言葉を聞いてどのようなイメージを持ちますか。自分には関係ない、人種差別なんてしていない、そう考える人がほとんどではないでしょうか。

私は、母が中国人、父が日本人のハーフです。そのため、幼いころから中国の文化に触れることができていました。ただ、ハーフだからという理由で友達に冷やかされたこともありました。

「ねえ、中国人は虫を食べるの。」

と聞かれたこともあるし、「中国は汚い」というイメージを持っている人にも出会いました。私はなぜその人たちが中国に行ったこともないのに、悪いイメージを抱いているのかわかりませんでした。ハーフであることを冷やかされたとき、私はどうしたらいいんだろうと悩んで、それを父に相談したことがあります。父は

「実際におまえは中国の文化を体験しているんだからそんな言葉は気にするな。」

と答えてくれました。私はこの言葉にとても救われました。私は、日中ハーフに生まれたこともあり、幼いころから周囲の人達の外国人に対する偏見について考えてきました。なぜ言葉や食べるもの、肌の色が違うだけで批判的な目で見えてしまうのか、それはその国についてよく知らないからだと思います。私の住んでいる地域には、外国の研修生の方が多くいらっしゃるのですが、ある時私の友達がその方たちを見て「怖い」と言ったのです。私は、「よく知らないということが怖いという気持ちにつながっているのではないか」と思いました。だから「もっと色々な国の文化を知ってお互いに認め合う心を持つべきだ」と考えました。そして私は既に中国の文化を体験できているからこそ、「絶対に他国の人やその文化に対して偏見を持たないし、差別的発言もしない」とそう決めていました。

しかし、ある時私はこの自分の考え方が間違っていることに気がつきました。先ほども触れましたが、私は「中国人は虫を食べるのか」と聞かれたとき、

「はあ…そんなわけないじゃん」

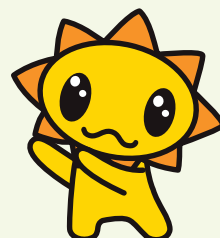
とため息交じりに言い返していました。その時の私はまだ、自分自身が虫を食べることは汚いという偏見を持っていたことに気が付いていなかったのです。実は、最近になって私は、中国でも虫を食べる地域もあるということを知りました。それは、私が中国に行ったときに私の目の前で、調理した虫をいところがおいしそうに食べる姿を見たからです。衝撃を受けました。その衝撃とは、「絶対偏見なんか持たない」と決めていた私自身が、虫を食べるという食文化に対し、偏見を抱えてしまっていたことへの衝撃です。私自身が認めたくないものが私の中にも潜んでいたのです。でもそれはなぜだろうと考えたとき、私は「表面的に認め合う」ことは出来ていても、「認め合うことの本質」そのものを理解していなかったのではないかと気づいたのです。

私が考える「表面的に認め合う」とは、一面のみを見て、全てを理解したと勘違いしていることです。そして「認め合うことの本質」とは、自分の想像を超えた文化や価値観に触れたときに、自分なりに色々な側面から見つめ、そういう文化もあるんだ、と丸ごと受け止める。さらに尊重するといった寛容な心を持つことです。この「認め合う」ことの本質が理解できたときに私たちは互いに国や文化の枠組みを超えた一人の人間として接することができるのではないのでしょうか。

まだ世の中にはたくさんの差別や偏見があり、苦しんでいる人達が多く存在しています。みなさんは「自分で気付いていない偏見」、持っていませんか。

いただきます! ぶちうま継承プロジェクト

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



子供たちの豊かな未来を見据えながら、
地域の「食」を「学び」「味わい」「伝え」ましょう！！

目的

子供たちが、豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身につけていくためには、何より「食」が重要です。
地域に伝わる「食」をみんなで味わいながら、そのおいしさをはぐくんだ地域の歴史も学び、子供たちの生きる力を伸ばすとともに、次の時代へ伝統文化を継承していこうというプロジェクトです。

当日の様子は
こちらを
ご覧ください



実施

期間：令和3年度～令和7年度 5年計画で進めます。

場所：県内を「芸北」「備北」「安芸」「備後」の4ブロックに区分し、地域の皆様のご協力をいただきながら、毎年度、企画・実施します。

アドバイザー：平山友美フードプロデューサー

第一弾として、「廿日市桶ずし」を実施しました！！

いただきます!
ぶちうま継承プロジェクト

第一弾
「廿日市桶ずし」

日時：令和3年12月12日(日)
10:00～15:30

場所：廿日市市中央市民センター 及びその周辺

共催：青少年育成廿日市市民会議



参加者：廿日市市内の小学生4年～6年 児童・保護者(13組・26人)
※新型コロナウイルス感染防止を考慮し、参集範囲や人数を制限しました。



協力：はつかいち塾 塾長 正木康章さん

廿日市の歴史・文化や「廿日市桶ずし」の由来を学びました。



協力：廿日市地区まちづくり協議会の皆さん
廿日市商工会議所女性会の皆さん

牛乳パックを活用し、楽しくお寿司を調理・試食しました。



協力：はつかいち観光協会わかばの皆さん

廿日市の歴史・文化を訪ねて市内散策を行いました。



協力：日本けん玉協会西広島支部 砂原宏幸さん
NJ-VOLTAGEの皆さん

廿日市で伝統があるけん玉も楽しみました。



(お問い合わせ・レシピ等)
廿日市商工会議所 TEL. 0829-20-0021

廿日市市の桶ずしの由来

廿日市の桶ずしは文化11年(1814年)つまり11代将軍徳川家斉の時代で光格天皇の御代に大黒屋新助という人がいて考案、創業し、大黒屋の「大」と新助の「新」をとって大新の桶ずしと呼ばれるようになったことが明らかになっています。

近世になり西国街道の宿駅となった廿日市に津和野藩の御船屋敷がおかれ産物の交易が発達し、町もにぎわい桶ずしの風流人士の愛好するところとなり、一躍廿日市の名物として一世紀半有余にわたり愛されるようになってきました。

(注) 廿日市商工会議所女性会が作成「廿日市市の桶ずしの由来」から一部抜粋



廿日市市民会議を初め、松本廿日市市長・生田教育長、はつかいち観光協会塩田会長、多くの関係者の皆さん、ご協力ありがとうございました。



青少年育成三原市民会議

青少年育成三原市民会議は、市内各種団体の協力のもと、青少年の健全な育成を図ることを目的に、活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら再開した令和3年度の活動の様子をご紹介します。

あいさつ・声かけ運動

11月の「子供・若者育成支援推進強調月間」、「児童虐待防止推進月間」に合わせ、三原市民会議と市保健福祉部門が連携し、11月7日にJR三原駅周辺で開催された浮城まつり会場内で、「あいさつ・声かけ運動街頭キャンペーン」を行いました。

青少年健全育成、児童虐待防止についての関心を高め、次代を担う子どもたちの健やかな育成を目指し、親子や子どもたちへあいさつ・声かけを行うとともに、啓発グッズを配布しました。啓発グッズには、花を育てる機会を通して、親子でふれあい、体験し、思いやる心が育つようにとの願いを込めて、花の種を選んでいきます。

当日は、天候にも恵まれ、三原市の公式マスコットキャラクターのやっさだるマンも甲冑姿で登場し、和やかな啓発活動となりました。

ファミリー版画教室

小学生とその保護者を対象として、年賀状に活用できる版画を作成する「ファミリー版画教室」を毎年市内3会場で開催しています。

作品は、板に絵を写して彫ったものに、ローラーでインクをつけてバレンでこすって仕上げます。みんな真剣な表情で取り組み、彫刻刀を初めて持つ子どもたちにも、講師の先生が丁寧に指導してください。

オリジナルの年賀状作りを通して、親子のふれあいの場を図ることを目的とした事業です。今年も、親子が和気あいあいとした笑顔あふれる行事になりました。

青少年健全育成標語表彰式

11月27日に三原リージョンプラザにおいて、青少年健全育成標語の表彰式を行いました。市内小学校高学年と中学校に募集を行い、日常生活や学校の中で、考えたことや強く心に残っていることを標語にすることを通じて、大切なことに気づき、豊かな心を育む一助となることを目的に開催しています。今年も、32校3,608点の中から入賞作品を決定し、小学生9名、中学生9名を表彰しました。また、三原地区保護司会と連携して同時に開催した社会を明るくする運動作文コンテストでは、三原市と世羅町の小中学校の37校1,036点の中から、小学生4名、中学生5名が表彰されました。

青少年育成三原市民会議では、新型コロナウイルス感染症の収束を願いながら、今後も、次代を担う青少年の健全育成に取り組んでいきたいと思っております。

県内各地の特性を生かした特色ある活動を行っています。令和3年度もコロナ禍で思うような活動ができていない状況があります。今回は、コロナと向き合う中で活動した二つの市町民会議を紹介します。



あいさつ・声かけ運動



ファミリー版画教室



青少年健全育成標語表彰式

いきいき地域活動紹介

青少年育成府中町民会議

青少年育成府中町民会議は、総務部会・事業部会に分かれ、地域全体で青少年を見守り応援していく活動に取り組んでいます。

総務部会は、各町内会長が所属し、「こども110番の家」、研修会の開催、広報誌の発行などに取り組んでおりますが、今回は事業部会の取り組みについて紹介したいと思います。

事業部会は、町内会をはじめとした各種関係団体や個人有志による多くの事業部会委員の方々の協力を得て事業を行っています。毎月行われている「さわやかあいさつ運動」や「公園等の見守り活動」、毎年行われている「家庭の日の作文府中町版」「夏秋の祭り巡視」はすっかり地域に定着しており、今年度も地域・学校・PTAの協力を得ながら継続して行われています。

今年度一番頭を悩ませたのは、以前から行われてきた「子ども祭り」などの行事の実施についてでした。コロナ禍で、学校でも地域でも子どもの体験活動が減少しているなかで、なんとか子どもたちに楽しい体験をしてほしいという思いから、どのようにしたら開催できるかを事業部会理事を中心に考えました。そうしたなかで、感染対策をしながら、夏には「わくわく広場～工作」、冬には「子どもフェスタ」を実施することができました。

「わくわく広場」は、7月31日(土)、児童50名ほどの参加で、風船ランタンづくりを行いました。事業部会理事のほか、府中町家庭教育支援チーム「くすのき」の方も工作指導に入ってください、子どもたちも集中してカラフルな風船ランタンを作りあげました。できた風船ランタンは、府中町のパラリンピック採火式にて、ランプを灯して採火式を彩りました。

「子どもフェスタ」は、例年の餅つきから内容を変更し、「和太鼓鑑賞」・「紙芝居」・「工作」を行うこととし、児童50名ほどの参加で12月12日(日)に行いました。感染対策として、子どもたちを9グループに分け、3つの体験をローテーションで順番に回るようにしました。「和太鼓」は、府中町の地元で活動している「楽打家」の皆さんによる迫力ある演奏で、また、「紙芝居」、「工作」は多くの高校生ボランティアのお手伝いにより、子どもたちもとても楽しい時間を過ごすことができました。

いずれの行事も感染対策のため人数制限をしたため、申し込みを断らなくてはいけない状態となり、こうした体験活動が求められていることを切に感じました。

これからも、様々なところと連携しながら、子どもたちのための活動に取り組んでいきたいと思ひます。



風船ランタンづくり



紙芝居



和太鼓鑑賞

青少年育成カレッジ 「総合講座」

第1回

令和3年11月13日(土)

「『その子らしさ』を育むために私たちにできること」



おきにし きよこ
沖西 紀代子 さん

県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 准教授

■ 講義 I

【多様な子どもの心とからだを守りはぐくむためにできること】

子どもたちの健康課題は複雑多様化しています。その中でも心の問題や性の問題に焦点をあて、その背景にある人間関係の希薄化、家族の問題について総論的なことを踏まえ、事例を通して子どもとのコミュニケーション方法や対応方法について考えていきました。



とうやま あつ き
當山 敦己 さん ここいろhiroshima

こうはた さくら
高畑 桜 さん ここいろhiroshima

■ 講義 II

【自分らしさって何だろう？

～こころもからだもいろいろ、彩り豊かでええじゃん～】

セクシュアルマイノリティ当事者の2人のライフストーリーを通して、「性の多様性は生の多様性」であること、【受け止めあえる社会】を創っていくために必要なことを考えていきます。ここいろhiroshimaの取り組みや子どもたちの実態についても触れていきました。



公益社団法人青少年育成広島県民会議では、公立大学法人県立広島大学と連携して、「青少年育成力レッジ」を開講しています。青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や手法を学び、「わかりやすい」と受講者からは好評です。今年度のテーマは「多様性を認め合い、心を元気に♡」とし、第1回は「『その子らしさ』を育むために私たちにできること」について、第2回は「多様性を認め合う、コミュニケーションとその実際」について開講しました。

第2回

令和3年11月27日(土)

「多様性を認め合う、コミュニケーションとその実際」



かねこ つとむ
金子 努さん

県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース 教授

■ 講義 I 【多様性を尊重することを 阻むアンコンシャス・バイアス】

意図せずに相手を傷つけてしまったり、多様性を受け入れなかったりした経験はありませんか?自分の言動に影響を与えている、アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込みや無意識の偏見)について見つめ、考えてみました。

■ 講義 II 【多様性を認め合うコミュニケーションの 実際】

人間は、他者から承認されることで安心し、希望が生まれ、その人らしく生きようとしています。人間同士が承認し合える共生社会実現に向け、相手を承認し、元気づけるコミュニケーションの方法を学び、実際に体験しました。



「認証状」授与式

青少年育成力レッジでは、所定の20単位(1講座1単位)を修得された方に、学習したことを評価して「認証状」を発行しています。

これまでに86名の方が修得されており、令和3年度は新たに2名の方が修得されました。



(敬称略)



多様な子どもの心とからだを守りはぐくむためにできること

おきにし きよこ 沖西 紀代子 さん 県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科看護学コース 准教授

はじめに

子どもたちの健康課題は複雑多様化しています。その中でもメンタルヘルスや性に関する問題に焦点をあて、その背景にある人間関係の希薄化、家族の課題の現状について理解し、子どもたちとのコミュニケーションの取り方や対応方法について考えます。

現代の子どもたちには、生活習慣の乱れ、肥満・痩身、アレルギー疾患の増加、メンタルヘルスの問題、性に関する問題のほか、時代の変化とともに新たに生じる多様な健康課題が生じています。心身の不調の背景にはいじめ、児童虐待、不登校、貧困などの問題が関わっているものもあり複雑化深刻化する傾向にあります。昨年からの新型コロナウイルス感染症によっても、大人だけでなく子どもにも生活習慣やメンタルヘルスへ大きな影響が出ています。

子どものメンタルヘルスに係る課題

子どものメンタルヘルスに係る課題を統計的なデータから紹介します。まずは10代の自殺者の推移とその原因です。令和2年の年齢階級別自殺死亡率は令和元年と比べて、20代及び10代では大きく上昇しています。またコロナ禍で女性の自殺死亡率も増加しています。

10代の児童生徒の自殺の原因や動機は「学業不振」「進路に関する悩み」「親子関係の不和」が上位を占めています。次に、小中学校における不登校の生徒数の推移は見てみると、令和元年度には前年度より増加しており、1,000人当たりの不登校生徒数は18.8人であり、平成10年度以降最多となっています。様々な取り組みがなされているものの、不登校の問題は喫緊の課題といえます。

10代でもうつ病をはじめとするこころの病気にかかることは珍しいことではなく、早くそのサインに気づき対処することが大切であり、そのためにはこころの不調や病気について正しく理解することが第一歩となります。高校生の保健の授業でもメンタル不調について取り上げられるようになってきました。10代に限らず、子どもは危機に直面したり、環境の変化や人間関係などによってストレスを抱えると多くの場合は心身にストレスサイン（異変）が現れます。まわりの大人がこのサインに気づき早期に対応することで状態が深刻になるのを防ぐことができます。ストレスサインには「行動の変化」「体の反応」「表情や会

県立広島大学
 (3) 10代・20代のこころの病気

こころの病気は、誰でもかかりうる病気です
 こころの病気で病院に通院や入院をしている人たちは、国内で約420万人(平成29年)、日本人のおよそ30人に1人、生涯を通じて5人に1人がこころの病気にかかるといわれます

こころの病気は回復しうる病気です
 こころの病気にかかったとしても、多くの場合は治療により回復し、社会の中で安定した生活をおくることができます
 体の病気と同じように治療を受けることが何よりも大切

こころの病気を正しく理解しましょう
 本人が苦しんでいても周りからは分かりにくいという特徴があります
 知らないうちに無理なことをさせたり、傷つけていたり、病状を悪化させているかもしれません
 みんながこころの病気を正しく理解することはとても大切

厚生労働省「和らぐこころから始めるこころのメンタルヘルス総合サイト」
<https://www.mhlw.go.jp/kokoro/01/04/01.html> 閲覧

話」に現れます。保護者やまわりの大人にとっては「困った行動」に見えることもありますが、変化が続く場合はストレスサインかもしれないと考えることが大切です。保護者も自分自身を責めて抱え込む場合もあります。そのため地域の見守りや相談できる存在が必要になります。保護者をはじめとしたまわりの大人が安定した気持ちで子どもと関わることも大切です。

児童生徒の性に関する課題

統計的なデータから性に関する課題を考えていきます。まずは情報化の進展に伴う課題としてSNS（ソーシャルネットワークサービス）に起因する事犯の被害を受けた18歳未満の子どもは令和元年には2,028人で平成25年以降増加傾向にあります。子どもたちがスマホを当たり前のように持つようになるとともに犯罪に巻き込まれる割合も高くなっています。

次に妊娠・出産に伴う課題として人工妊娠中絶件数は令和元年度 156,430 件であり減少傾向にあります。そのうち10代が1割強を占めています。人工妊娠中絶実施率（女子人口千対）は 6.2 となっており、年齢階級別にみると、「20～24歳」が 12.9、「25～29 歳」が 10.4 となっており、「19歳」が 9.0、「18 歳」が 5.7 となっています。10代で妊娠・出産、中絶をする存在を認識する必要があります。

最近「LGBTQ」という言葉はよく耳にするようになったと思います。学校における性同一性障害への理解や対応に関する調査があり、具体的な対応例について報告されています。例えば、服装では自認する性別の制服・衣服や体操服の着用はみとめることや、呼称では校内文書を児童生徒が希望する呼称で記すこと、自認する性別として名簿上扱うなどの対応が行われるようになってきています。その調査をもとに学校ではきめ細かな対応の実施について文部科学省が通達を出しています。しかし、LGBTへの対応は難しい課題であり、教職員をはじめとするまわりの大人が理解を深めていくことが重要であり、まわり子どもたちへの教育も不可欠です。社会全体として多様性を受け入れることが求められているといえます。

そのような現状の中、学校では体育の保健を中心に性に関する教育が進められています。子どもたちは科学的に身体の成長・変化（大人になる過程、自分のからだに起こる変化）について学ぶことはもちろんですが、「生命尊重」「生物的側面」「心理的側面」「社会的側面」など多面的に様々な教科で総合的に学べるように取り組まれているところです。私が性教育をするときに子どもに伝えているのは「生まれてきた奇跡」を知り、「大切に育てられた今があること」です。自分の生（いのち）に向き合う場面だと考え取り組んでいます。

おわりに

子どもは気持ちをうまく言葉に表すことができないことがあります。言葉にできないからからだで表現します。それをうまく受け止めてもらえたら、次も言葉でなくても何かしら表そうとします。子どもに目と耳を向けていたら子どもの本音に近づけます。まわりの大人が子どもに関心と大きな心を持って関わり続けられれば、子どもたちも安心して自分を認めて自分らしく成長していけるのではないのでしょうか。



「自分らしさ」って何だろう？

～こころもからだもいろいろ、彩り豊かでええじゃん！～

とうやま あつぎ さん こうはた さくら さん ここいろhiroshima共同代表

はじめに

近年、LGBTQ+についてメディアでも取り上げられるようになり、セクシュアリティに関する課題が身近な関心事になりつつあります。思春期・青年期は誰しも自身の心と体の変化や、自身の生き方について悩みを抱きます。一方でセクシュアルマイノリティであるということ生きづらさを感じる事が顕著になる時期でもあります。当講座では、セクシュアルマイノリティ当事者である私たちのライフストーリーを通じて、当事者が思春期・青年期に感じてきた生きづらさを共有するとともに、誰もが安心して自分らしく生きていくために大切なことは何かについて考えていきます。

二人のライフストーリー

當山は1991年、女の子として誕生しました。第二次性徴が始まった小学5年生頃からどんどん女性化していく身体に対して、「自分の身体ではない気がする」という違和感が出てきました。中学生になると女子制服に嫌悪感を抱くようになり、心と体の性の不一致感が更になり強くなりました。当時は「セクシュアルマイノリティ」「LGBT」等の言葉や知識は全く無く、自分がなぜこんなにも違和感を抱いているのか分かりませんでした。身近に同じ悩みを持っていそうな人はおらず、「自分だけがおかしいのではないかと悩んだ時期でもありました。相談したくても誰に、どのように相談して良いか分からず、一人で抱え込むことが長く続きました。高校2年生の時に、性同一性障害という言葉を知り、「自分はこれかもしれない」と自分の違和感の正体を見つけたような気がして安心したものの、将来教員になりたい私にとっての性同一性障害当事者で教員をしているロールモデルが存在せず、大人になった自分が想像できませんでした。将来に対する絶望感がありながらも、大学進学を決めて教員免許取得のために勉学に励みました。大学生活では、誰にも相談できないまま過ごしているうちにどんどん自己否定感が増していきました。自分の人生を諦めたくなるほど、孤独感に襲われている状況の中で、「あの人になら話しても大丈夫かもしれない」と思える先輩にカミングアウトを決意しました。先輩から、「人と違うことこそ魅力だよ」という言葉をもらい、自分のことをそのまま受け止めてくれる存在となりました。そこから、「自分に正直に生きていきたい」と思えるようになり、男性として人生を歩むことを決めました。ホルモン療法や性別適合手術を経て女性から男性に戸籍変更をし、現在は第二の人生を歩んでいます。

高畑は、幼少期から自身の性的指向が女性に向いていることに気づいていました。小学校低学年の頃から兄の精神疾患により家庭内が不安定になりました。小学校高学年になると友人たちが恋愛の話を始めますが、異性愛が前提であるため自身の話はできない状況でした。当時はまだセ

クシユアルマイノリティに対する差別的な意識があったり、正しい情報に触れる機会もなかったため、「自分は変な存在なんだ」、「自分のセクシユアリティはばれてはいけない」と恐怖を感じました。また、精神疾患のいる家庭の状態も友人たちとは明らかに異なっていることに気づき、セクシユアリティのことも家庭のことも誰にも相談できず、隠したまま思春期を過ごすこととなります。大学卒業後、小学校教員になるが「人と違う自分に教職が務まるのだろうか」「セクシユアリティのことや兄のことがバレたらどうしよう」という不安感を抱いていました。多忙を極める教員生活の中で、自身の悩みを一人で抱え込んでしまい適応障害で休職します。休職する中で、「ありのままの自分を両親に伝えたい」という気持ちが芽生え、カミングアウトを決意。自身のセクシユアリティと兄のことで寂しかった気持ちを伝え、両親にまるごと受け止めてもらいました。この経験から、このままの自分でいてよかったんだと深い自己受容感を感じると共に、自分らしく生きていこうという気持ちが湧きました。そこから自分自身の生き方を再構築していきました。

二人のライフストーリーに共通することは、①自分自身の悩み（セクシユアリティ、家庭環境、進路など）を安心して相談できる相手がないことによる孤立化、②適切な情報やロールモデルの少なさによる自身の生き方への不安感、③自分の悩みや本音を受け止めてくれる他者との出逢いにより自身のあり方・生き方を再構築できたこと、が挙げられます。これらはセクシユアリティに関する悩みだけでなく、貧困やいじめ、子育てなど様々な場面で生きづらさを抱えている人々にも共通するものだと考えます。



【心の安全基地】の重要性

私たちは活動を通じて【心の安全基地】を創る・増やすことを目指しています。【心の安全基地】というのは、自分のありのままの状態・気持ちを受け止めてくれる存在のことです。【心の安全基地】があると、①自分自身・他者・人生を信頼できるようになる、②「助けて」が言えるようになる、③より自分らしく生きていくためのチャレンジができるようになる、と私たちは考えています。特に②「助けて」が言えるようになることは、青少年はもちろんどの世代の人にとっても重要であり、生きづらさを感じているときのセーフティネットとしての役割を担うと考えます。「否定しないで受け止める」「相手のことを知ろうとする姿勢をもつ」ことで、身近なところから【心の安全基地】を創っていく、増やしていくことができるのではないかと考えています。

おわりに

どの人にとっても【心の安全基地】と感じられる存在がいるということは、根源的な安心感や自分らしく生きていく希望を生み出します。まずは自分が自分自身にとっての受け止める存在になるとともに、身近な人にとっての【心の安全基地】になっていきませんか？



多様性を認め合う、 コミュニケーションとその実際

金子 努さん 県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース 教授

はじめに

去る令和3年11月27日、三原市にて「多様性を認め合う、コミュニケーションとその実際」について研修を行った。午前の部では「多様性を尊重することを阻むアンコンシャス・バイアス」と題して講義した。

みなさんは、意図せずに相手を傷つけたりしまったり、多様性を受け入れなかったりした経験はないだろうか。多様性を受け入れることを阻むものの一つに、アンコンシャス・バイアスがある。

アンコンシャス・バイアスとは、「無意識の偏見」「無意識の思い込み」「無意識の偏ったものの見方」のことを意味している。私たちは今まで生きてきた経験や受けた教育などから、さまざまなアンコンシャス・バイアスを持っている。例えば、「男らしさ」「女らしさ」である。昭和の時代には、「男らしくしなさい」「女らしくしなさい」と言って、そのあるべき姿が家庭内や教育現場などで押し付けられてきた。現在では、それは一つの価値観であり、様々な性のあり様が言われるようになってきている。しかしながら、昭和の時代に生きてきた人には当時の価値観が染みついている、本人が意識していないところでその価値観に基づく言動が現れてしまい、相手や周囲の人を不快にさせてしまうことがある。

ダイバーシティ（多様性社会）の実現が言われる現在、セクシュアルマイノリティLGBTQに対する差別・偏見の解消、女性活躍の促進、異文化理解などは喫緊課題である。自分とは違う人の存在を認め、尊重していく、誰もが基本的人権を保障される社会の実現のためには、自分のなかにあるアンコンシャス・バイアスに気づき自分で適切に制御できるようになることが求められているのである。

アンコンシャス・バイアスに関する実態

アンコンシャス・バイアスに対する認識は、労働現場でも重要な課題とされている。人材不足が深刻になっている労働現場では、労働者が働きやすい環境を整備することが求められている。

日本労働組合総連合会（以下、「連合」とする）は、誰もが多様性を認め合い、互いに支え合うことのできる職場・社会の実現をめざす取り組みの第一歩として、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み、偏見）診断をGoogleアンケートで実施した（2020年6月10日～11月11日、回答者数は50,871名）。

アンケートの設問項目は次とおりである。

Q 設問を見て自分に思い当たるものにチェックをしてください（複数選択可）＜計20問＞

- 「親が単身赴任中」というと、父親を想像する（母親を想像しない）
- 体力的にハードな仕事を女性に頼むのは可哀そうだと思う
- お茶出し、受付対応、事務職、保育士というと、女性を思い浮かべる
- DV（ドメスティック・バイオレンス）と聞くと男性が暴力をはたらいていると想像する（女性を想像しない）
- LGBTの人は一部の職業に偏っていて、普通の職場にはいないと思う

- LGBTであると聞くと、戸惑いを感じてしまう
- こどもが病気になったときは母親が休んだほうが良いと思う
- 育児中の社員・職員に負荷の高い業務は無理とってしまう
- 介護しながら働くのは難しいと思う
- 病気治療しながら働いている人をみると、仕事をやめて治療に専念した方が良いと思う
- 障がいのある人は、簡単な仕事しかできない、あるいは働くのが難しいだろうと思う
- 非正規雇用で働く人は、自分で望んで、その働き方を選択していると思う
- パートタイマーは、「主婦が家計補助のために働いている」というイメージがある
- 外国人労働者は日本の企業文化にあうのか、つい心配になる
- 外国人労働者をみると、出稼ぎなど、一時的な滞在者だと思う
- 定時で帰る人は、やる気がないと思う
- 上司より先に部下が帰るのは失礼だと思う
- 「普通は〇〇だ」「それって常識だ」と思うことがある
- 年配（高齢者）の人は頭が堅く、多様な働き方への融通が利かないとってしまう
- 「多様性」と聞くと、全ての違いを、なんでも受け入れなければならないことだと思う

連合のプレスリリース（2020年12月4日付け）によると、回答結果について以下のポイントが挙げられていた。

- ◆ 連合が行った調査等で過去最多の5万人が回答した。
- ◆ 日常や職場で95.5%の人がアンコンシャス・バイアスを認識していた。
- ◆ 男性5.9件、女性5.0件と男性の方がアンコンシャス・バイアスを認識していた。
- ◆ 多くの人々がアンコンシャス・バイアスを認識した設問には次のものがあった。
 - ①「『親が単身赴任中』というと、父親を想像する」66.3%
 - ②「介護しながら働くのは難しいと思う」58.4%
 - ③「体力的にハードな仕事を女性に頼むのは可哀そうだと思う」51.5%
- ◆ 男女差が大きかった設問には次のものがあった。
 - ・LGBTに関するアンコンシャス・バイアスは男性が女性の2倍以上であった。
 - ・「体力的にハードな仕事を女性に頼むのは可哀そうだと思う」で男性56.6%に対し、女性32.5%と24.1ポイントの開きがあった。
- ◆ 仕事との両立に課題があると考えられた設問については次のものがあった。
 - ・「育児中の社員・職員に負荷の高い業務は無理とってしまう」人は3人に1人であった。
 - ・「介護をしながら働くのは難しいと思う」は過半数であった。
 - ・障がいや治療に関するアンコンシャス・バイアスは男女で認識に開きがあった。

みなさんは、20の設問のうちいくつ該当するだろうか。

また、内閣府は令和3年度、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査を実施しその結果を公表している（調査結果の概要については、右記を参照のこと。2022年1月10日アクセス、https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/seibetsu_r03/01.pdf）。調査結果から、異性に対する思い込みだけではなく、男性・女性自身も無意識のうちに自身で（異性より）強く思い込んでいることもあることが明らかになっている。内閣府は、性別役割認識を変えるべく、図のようなイラストを作成し普及啓発している。



アンコンシャスバイアスを減らそうと作成した家庭生活についてのイラスト素材（内閣府男女共同参画局提供）

ところで、このアンコンシャス・バイアスを完全に払拭し、初期化することは容易なことではない。まずは、無意識のうちにあるものを意識化すること、そしてその意識化したものが相手や周囲の人にどのような影響を与えているのかを自覚することから始めることが重要である。

ハラスメントに該当する言動と共通している点は、言っている本人には悪気がなかったり(無自覚)、場合によっては相手に対して良かれと思って行っている点だ。自分の言動が他者に対してどのような影響を与えるのか、を自覚しなければ、自らの言動を修正することにつながらない。

アンコンシャス・バイアスは「自分には関係ないこと」ではなく、「自分のなかにもある」ことを前提に自分自身を見直してみることから始めてみよう。

多様性を認め合うコミュニケーションとの実際

続いて午後の研修では、「多様性を認め合うコミュニケーションとの実際」をテーマに、人間同士が承認し合える共生社会実現に向け、相手を承認し、元気づけるコミュニケーションの方法について講義した。

人間は、他者から承認されることで安心し、希望が生まれ、その人らしく生きることができる。図は心理学者のマズローが示した人間の基本的欲求の構造である。三角形の図の一番上にあるのがセルフ・アクトゥアライゼーション(自己実現の欲求)である。「これからどうしたいですか?」「どんな生活をしたいですか?」

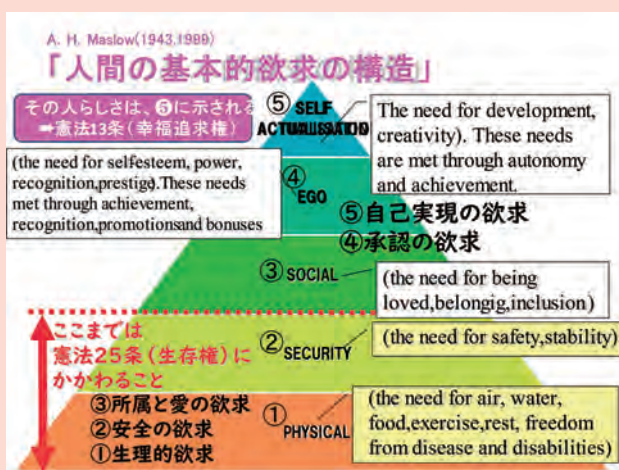
と意向を尋ねた際に「このままでいいです」「特にありません」と答える人に見られるのが自己実現の欲求の下にあるエゴ(承認の欲求)が満たされていないという点である。人は、周囲の人たちから承認され「いまの自分でいいんだ」と自認できたとき、承認の欲求が満たされ願いや希望が表出されるようになる。多様性を認め合うとは、お互いを承認し合うことであり、それはそれぞれの人がある人らしく生きることを支えることでもあるのだ。

人と人のコミュニケーションは、キャッチボールに例えることができる。自分が発した言葉を相手が受け取ってくれて、その相手が言葉を返してくれる。その言葉を自分が受け取ってキャッチボールが成立する。では、次の会話はキャッチボールになっているだろうか。

AがBに対して、「気分はどうですか?」と尋ねた。Bは「あまりよくないですね」と答えた。それを聞いたAは「今日は早く仕事をきりあげて、もう帰った方が良くと思いますよ」と声をかけた。このAとBとのコミュニケーションは一見成立しているように見える。しかしながら、AはBの発した「あまりよくないですね」という言葉を受け取っていないのである。Bの発した言葉をAが受け取った場合、A「そうですか。あまりよくないんですね」と答え、ここで会話のキャッチボールを終えたうえで、A「今日は早く仕事をきりあげて、もう帰った方が良くと思いますよ」と声をかけると良い。

会話のキャッチボールを重ねていくとお互いに満たされた気持ちになる。が、ズレたままコミュニケーションが進んでいくと受け止められた感が満たされないままとなるのである。Aが良かれと思ってかけた言葉「今日は早く仕事をきりあげて、もう帰った方が良くと思いますよ」をBは文字通り受け取ることが難しくなる場合もある。

多様性を認め合うコミュニケーションを実際に行っていくには、自ら発する言葉の意図を意識し使っていくことが重要になる。この意図を重視したコミュニケーション技法としてあるのがマイクロカウンセリングである。マイクロカウンセリングでは、コミュニケーションを行う際の意図



を自覚し、その意図に基づき言葉を選択していく。先の例で考えると、AはBの様子が気にかかり「気分はどうですか?」と声をかけた。Bの「あまりよくないですね」の応答に対し、AはさらにBの様子を理解することを意図して「あまりよくないんですね」「どんな具合かももう少し詳しく教えていただけますか」などと質問を重ね、Bの様子を理解していく。Bに対する提案は、Bの思いや考えを詳しく聞いたうえで行えばBの意向に沿った提案が可能になる。AはBを早い段階で理解したつもりで提案を行わず、詳しく聞きBの意向を把握してから提案を行うと良い。

マイクロカウンセリングは傾聴を土台としている。マイクロカウンセリングは、コミュニケーションの相手がどのように感じ考えているのかを、質問などを用いて引き出し共有するのに有効な技法だ。傾聴には、「開かれた質問,閉ざされた質問」「はげまし」「言い換え」「要約」「感情の反映」などの技法があり、意図を踏まえて適切に使い分けていく。

ところで、傾聴を「相手の話に集中し、一生懸命に聴くこと」などと理解している人がある。しかし、ここでは傾聴を「意図を持って相手の話を聴くこと」と捉えて欲しい。つまり、コミュニケーションの主体は相手ではなく自分にある。自分が何を意図して傾聴するかが問われるのであり、ただ漫然と相手の話を聴くことではないのだ。

多様性を認め合うコミュニケーションを獲得するために

多様性を認め合うコミュニケーションを行う際には次のように進めてみてはいかがだろうか。

- ①相手のペースに合わせコミュニケーションをすすめる。自分の相手に対する期待や提案を横に置き、コミュニケーションをすすめるペースを落とすこと。
- ②相手の考え方や意向を尊重すること、そのためには自分のものの見方、考え方、価値基準で早期に判断しないこと。
- ③相手の経験や知恵を尊重すること。
- ④相手のコントロール力や自主性に敬意を払うこと。

自らの意図を意識しコミュニケーションできるようになるためには、トレーニングが必要である。自分のなかにあるアンコンシャス・バイアス、そして思考方法の癖やパターンを自覚することで、新たな人間関係を築くことも可能になる。そして、知ったうえで、実際に行動できるように意識しトレーニングし続けること。行動変容を生むためにかかる時間と労力には、人によって違いがある。比較的短時間で結果を出せる人もあればそうでない人もある。たとえ時間がかかっても、意識しトレーニングし続けることで違いをつくることのできるものである。

また、コミュニケーションを重ねていくうえで大切なことは、合意に至るか否かということではない。コミュニケーションを通じてお互いの違いを知ることである。違いがあることを知ること、自己の価値観や“ものの見方・考え方”を見直し、相互に“変わる”ことのできる可能性を生むのである。

終わりに—多様性を認め合う共生社会の実現に向けて

多様性を認め合う社会の実現は社会的包摂を意味する。いまの日本社会では、社会的排除が深刻な問題となっている。日々起こる様々な事件の一つの要因に社会的孤立の問題がある。社会的排除は、人を孤立化し孤独にさせてしまう。人は、孤立し孤独になることで心身ともに蝕まれてしまうことがある。そうした状態に陥ることを防いだり、回復させるためにも多様性を認め合う共生社会の実現は極めて重要な課題である。

ただ、多様性を認め合う共生社会を実現するためには、個人の努力だけでは限界がある。職場や学校、地域において組織的に取り組むこと、そして社会全体の取組みが不可欠である。

多様性を認めあう共生社会の実現を共通の目標として、各人がそれぞれの立場で取り組んでいきましょう。

関連事業「広島県子供議会」

(青少年サポーター事業)

広島県と広島県議会の共催で、次代を担う子供たちが県政に対する意見や提言を表明できる機会を通して県の魅力や課題に関心を持つとともに、県議会の役割や仕組みを知り、議会制民主主義や地方自治への理解を深め、主体性と社会参画意識を高めることを目的とした「広島県子供議会」が今年も開催されました。

例年は青少年サポーター事業として、子供議員の活動を支援する大学生を募集し、育成していましたが、今年度はコロナ禍の影響でサポーターの募集を見送りました。

■ 広島県子供議会の活動

今年度の子供議会は広島県内に在住する小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒31人で構成されました。「10年後の広島県がこうだったらいいのになあ」をテーマに、事前の勉強会でアイデアや意見を出しあい、活発な議論をしながらまとめた質問や提案を、知事や県議会議員の前で発表しました。

勉強会 開催日：7月17日(土) 13:00~16:00
会場：広島国際会議場コスモス
内容：子供議会で行う質問・提案文づくり

子供議会 開催日：10月23日(土) 13:00~15:05
会場：県議会議事堂
出席者：議長、副議長、知事、副知事、教育長、警察本部長、担当局長等
※当日の午前中に県議会議場で子供議員任命式を行い、県議会議長等から任命書とバッジが交付されました。

子供議会の様子はインターネットで配信中

URL：<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gikai/0310kodomogikai.html>



勉強会の様子



子供議会当日の様子①



子供議会当日の様子②



主催：広島県・広島県議会

協賛：公益社団法人青少年育成広島県民会議

■ 新型コロナウイルス感染防止対策

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための広島県の対処方針について」(令和3年10月11日一部改正)等に基づいて対策を講じた上で開催しました。

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

7月1日～7月31日

青少年の非行・被害防止
全国強調月間

11月1日～11月30日

子供・若者育成支援推進
強調月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、いただきます!ぶちうま継承プロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概要〉

設立 昭和41年12月7日
法人格取得 平成2年10月21日
認定日 平成23年3月22日
育成積立金 5億円(平成3年度設置)
会長 神出亨(株式会社中電工前相談役)

Information

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのための活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、機関紙「せとのあさ」やホームページをご覧ください。

<http://www.hiro-payd.or.jp>

■正会員

(年額)	個人	3,000円
	団体	5,000円

■賛助会員

(年額一口)	個人	1,000円
	団体	10,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」等をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

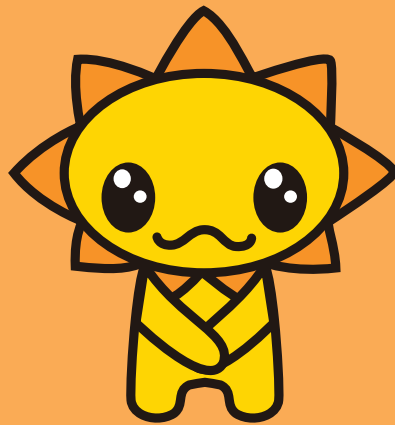
口座番号 / (普通) 233251

口座名義 / (公) 青少年育成広島県民会議



「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、“元気に明るく育つ青少年”をイメージしてデザインしました。

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー



広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

せとのあさ ー第154号ー

令和4年2月発行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL.082-513-2742 FAX.082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>



題字／茶道 上田宗箇流
第十六代家元 上田宗冨